題 室 慧

高野口学校給食センター

TEL 42-3016 FAX 42-3141



ピーナッツあえ キャベツ 20 緑 もやし 15 緑 ほうれんそう 20 緑 ピーナッツあえのもと4 さとう

しょうゆ(濃) 1

こんにゃく 10 黄 あぶらあげ さといも 15 黄 だいこん 5 赤 20 緑 きんときにんじん10 緑 ねぎ 5 緑 とうにゅう 20赤 かつおたし だしこんぶ

あぶら 0.5 しょうゆ(濃) 1.8 \ しょうゆ(淡)2.2 さけ みりん でんぷん 1.8

さばのみぞれに 1きれ 赤 ゆずふうみのそくせきづけ 15 緑 40 緑 こまつな きんときにんじん5 緑 かつおぶし 0.8 赤 (しょうゆ(濃)3.5 いちみとうがらし0.02 さとう 0.5 ゆずかじゅう 0.1 さとう

「冬至給食」 かぼちゃとゆずを使ったこんだてです。



0.5 赤 ねぎ しょうゆ(淡) 9 みりん √ だしこんぶ 0.5 かつおだし

ほそぎりたまご入りさんしょくあえ ほうれんそう 10 緑 にんじん ほそぎりたまご 5 赤 しょうゆ(濃) 2 す 1 0.5 \ あぶら

みかん 1こ 緑

キャベツ・にんじん・金時にん じん・みずな・さつまいも・ま るだいこん・はくさい・ほうれ ん草・こまつな・しゅんぎく・ だいこん・ねぎ・ブロッコリー なす・富有柿・みかんを 取り入れる 予定です。

\$\bar{\text{\texi}\text{\text{\text{\text{\text{\texit{\text{\text{\text{\texi}\text{\texit{\text{\texit{\text{\text{\texit}\x}\tinz}\\ \text{\text{\t





1年のうちで最も昼が短く、夜が長い日。この日に かぼちゃを食べて、ゆず湯につかると、病気にならな いといわれています。

675

昔の人の知恵から生まれた行事を 大切に受けついでいきたいですね。



とう じ 冬至には、かぼちゃを食べる習慣があります。

たいできます。 たい はが はずん はずん はずられる できます。 かばちゃの旬は夏ですが、長く保存しておくことができます。 昔の人は、野菜が少なくなる冬に、栄養たっぷりのかぼちゃを えんでである。 食べて、かぜなどをひかず元気に過ごせるようにと願い、冬至 にかぼちゃを食べるようになりました。









熱や力のもとになる食品 (こく類・いも・あぶら・さとう)



からだをつくる食品 (肉・乳・卵・魚・豆・海そう)



からだの調子をととのえる食品 (やさい・くだもの・きのこ)

☆材料購入の都合により 献立を変更することが

今年もあとわずかとなりました。何かと慌ただしくなる頃ですが、空気が乾燥し、寒さも一段と厳しくなるので、 かぜやインフルエンザが流行しやすい時季です。年末・年始の楽しい行事が続き、生活リズムが崩れがちですが、 朝・昼・夕の3食をしっかりとり、かつ栄養のバランスにも気をつけて元気に過ごしましょう。

かぜに負けない体づくりをしよう!

たいをしっかりし、栄養バランスのとれた食事をとり、夜は十分に睡眠をとって体をしっかり休めることが大切です。

「ただいま」の後、「いただきます」の 前に手洗いをせっけんでしっかり。



室内の温度と湿度を適度に保つ。空気が 乾燥しすぎないようにし、ときどき換気 も忘れずに。



栄養・運動・休養のバランスを日頃から 心がける。

たんぱく質をしっかりとる。



魚、肉、卵、牛乳・乳製品、大豆・大豆 製品は、かぜに負けない体を作ります。



体を温め、ビタミンAの吸収を助ける。 ただし、とりすぎに注意。



野菜や果物に多いビタミンA、Cは体の 抵抗力を高めてくれます。

、物で体の中から温きろう

木枯らしが吹く寒い日には、温かい鍋料理で体の中から acc 温まりたいですね。鍋料理や温かい麺・汁物など、料理方 法を工夫するほか、食べ物自体にも、体を冷やしたり温め たりする効果があるといわれています。体を温める食べ物 を食事に取り入れて、体のしんからポカポカ温かくなりま しょう。

